

公立文化ホールの活性化に関する研究

ー 公立文化ホールを長期利用するための方策構築に関する研究 ー

堀場研究室 1981624 高橋 里菜
Horiba Laboratory 1981624 Rina Takahashi

SUMMARY

Many of the existing public cultural halls have been built since 1950 and are in the process of being renewed or undergoing major renovations. In addition, the number of users is decreasing due to the declining birthrate and aging population, the need for barrier-free is increasing, measures are taken to prevent ceiling falls after the Great East Japan Earthquake, aging buildings, securing budgets for construction and renovation, etc. There are many social problems that we have. Therefore, many halls are forced to close.

In order to keep the hall alive in the future, there is an increasing need to analyze the current public cultural hall and consider the optimal policy based on the future potential.

1. 研究背景と目的

近年、公立文化ホールの現存する多くが、竣工後 50 年以上経過し、更新や大規模改修の時期を迎えている。

本研究では、既に長期間使用されているホールの存続の指標について方向性を示すことを目的とする。具体的には、建築計画的要因、都市的要因、劇場法的要因視点から分析を行い、それぞれの実態把握を行うことで、活性化に有効な要因の傾向を示す。

2. 研究方法

2.1 研究対象

(1) アンケート調査(2017 年実施)

「平成 28 年度全国公立文化施設名簿」^{参考文献 1)}をもとに、全国の公立文化ホール 2371 施設にを対象とした。

(2) ヒアリング調査(2018 年～2019 年実施)

アンケートで回答の得られた施設から活性化している、かつ、稼働率の高い 18 施設を選定し、2018 年 8 月から 2020 年 12 月にかけてヒアリング調査を行った(表 1)。

表 1 ヒアリング調査施設

施設名	竣工年	客席数	稼働率	活性化の要因	調査日程
施設A	1979年	約1500席	95.1~100%	建築計画的要因・都市的要因・劇場法的要因	2019年8月17日
施設B	1984年	約660席	70.1~75%	都市的要因・劇場法的要因	2018年12月10日
施設C	1988年	約1450席	80.1~85%	劇場法的要因	2018年11月16日
施設D	1989年	約200席	95.1~100%	都市的要因・劇場法的要因	2018年8月9日
施設E	1990年	約800席	90.1~95%	建築計画的要因・都市的要因・劇場法的要因	2019年11月29日
施設F	1993年	約700席	60.1~65%	劇場法的要因	2019年1月9日
施設G	1993年	約800席	95.1~100%	劇場法的要因	2019年8月6日
施設H	1995年	約600席	95.1~100%	劇場法的要因	2018年11月28日
施設I	1996年	約720席	95.1~100%	建築計画的要因・都市的要因・劇場法的要因	2018年10月24日
施設J	1996年	約1500席	80.1~85%	都市的要因・劇場法的要因	2018年11月28日
施設K	1996年	約800席	95.1~100%	劇場法的要因	2019年8月6日
施設L	1998年	約200席	95.1~100%	回答なし	2019年8月17日
施設M	2003年	約250席	90.1~95%	都市的要因	2019年8月7日
施設N	2004年	約300席	95.1~100%	建築計画的要因・都市的要因・劇場法的要因	2019年8月19日
施設O	2008年	約1700席	75.1~80%	建築計画的要因・都市的要因・劇場法的要因	2018年12月21日
施設P	2010年	約730席	95.1~100%	都市的要因	2018年11月10日
施設Q	2012年	約1500席	85.1~90%	回答なし	2019年11月14日
施設R	2016年	約1500席	95.1~100%	建築計画的要因・都市的要因・劇場法的要因	2020年12月23日

(3) 都市分析

アンケート調査で回答を得た施設を対象とする。施設ごとの特性によって都市的要因の適正值があると想定し調査をする。本研究ではヒアリング施設の分析を行う。

(4) 公立文化ホールにおけるコモンスペース

ヒアリング調査において建築計画的要因の「目的に依存しない一般利用者の居場所」(=コモンスペース、以下CSとする)が活性化に有効であるという意見が多く得られた。また、既往研究^{参考文献 2)}から劇場にあるCSの利用者が公演にも関心を持っている傾向が明らかになっている。以上から、公立文化ホールにおけるCSの計画が活性化につながるとして分析を行う。本研究では特定の用途を持たない多目的なCSを対象とする。

2.2 研究方法

(1) アンケート調査

全国の公立文化ホール 2371 施設に活性化、改修に関するアンケート調査を行い 929 施設から回答を得た。

(2) ヒアリング調査

アンケート調査で明らかになった「活性化の要因」における確認調査を行なった。

(3) 都市分析

総務省統計局と独立行政法人統計センターが運用する「jSTAT MAP」^{参考文献 3)}を用いて各施設のメッシュデータを取得する。データの出力方法は対象施設を中心に半径 1km, 3km, 5km に範囲を設定し、範囲内の人口、年齢層、世帯割合などの統計データを収集する(表 2)。

表 2 都市分析項目

大項目	中項目
メッシュ分析項目	席数比、人口、人口密度、年齢層、市区町村面積、若年層率、高齢化率、世帯数増減、世帯割合等
各施設項目	名称、竣工年、所在地、築年数、駐車場、建築面積、複合・併設施設有無、劇場分類等、稼働率、施設用途、年齢層、事業内容、団体連携、客席数、回収有無、活性化有無等
MAP属性項目	交通距離(バス停、駅の有無)、学校施設数、類似施設数、等

(4) 公立文化ホールにおけるコモンスペース

ヒアリング施設におけるコモンスペース(=以下CS)を平面図、ヒアリング時の写真などをもとに建築計画の要素で分類を行い、類型を得る。家具によって起こる行動や、運営方法を参考にしヒアリングから得られた運用後の建築計画の不備に対しての提案を行う。

3. アンケート調査結果による活性化の要因

活性化の要因について回答した施設(381件)の集計結果を昇順(要因項目別)にグラフ化したものである(図1)。

以下の結果を踏まえ、ヒアリング調査にて確認をした。

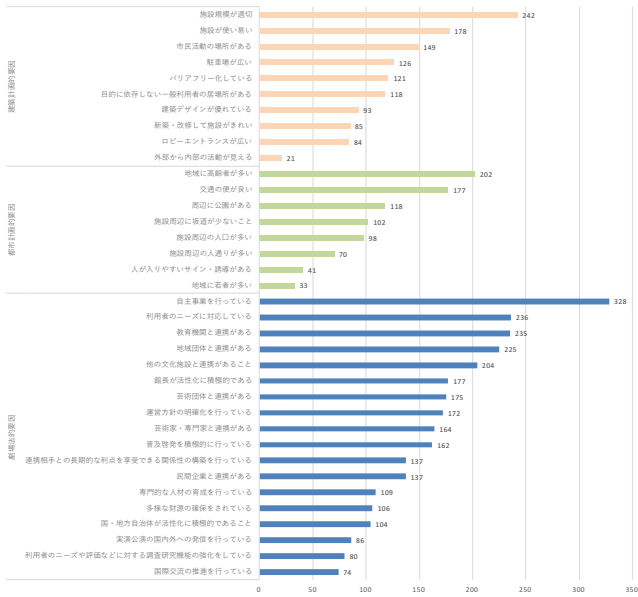


図1 アンケート調査による活性化の要因

4. ヒアリング調査結果

ヒアリング調査において、実際に活性化している施設の「活性化の要因」、「今後さらに活性化するための要因」、「活性化を阻害する要因」、「一般論としての活性化の要因」活性化している施設の実態を把握する。

表3 実際に活性化している施設の活性化の要因

施設名	活性化の要因	今後さらに活性化するには	活性化を阻害する要因	一般論として活性化の要因
施設A	自主事業もイベントもやっている。来客の子育ての場になっている。	・今更なることを継続してやっていく。今後具体的に何をするのかは難しい。	・利用者はほとんど定着はする。行動範囲も大きくない。	・人が集ってくる(自然と、目的がなくても施設であることが重要)。
施設B	・若者が多く、稼働率が高い。 ・自主事業を行っている。 ・他機関との連携を行っている。	・関心の無い人でも施設が存在が地域の誇りとなるように。 ・施設の活性化だけでなくその地域の活性化にどうにか貢献できる。	・定額などで一時施設してしまうのはマイナス。 ・稼働率が少ない。収益が低い。 ・地域人口減少問題。自主事業は必要。自主の質が高まれば民間事業も高まる。	・講義以外の日は人が来ない現状。 ・ホールが利用されていない。他の施設と利用されない。
施設C	・約30年だが、立地が良い。 ・市の立てた「芸術文化振興プログラム」に沿って運営している。 ・アートや音楽系。市の補助に依存しない運営体制。	・現状状況を鑑みながら定期的な保守点検と設備の改善を実施し施設を快適に使用できるようにしていく。	・稼働率が多い。	・若年層の利用者が多い。
施設D	・自主事業を親善団体の協賛で行っている。 ・運営を市長の実行委員会で行っている。	・特になし。	・駅から近い。 ・稼働率が低い。	・駅から近い。 ・稼働率が高い。
施設E	・稼働率が高いことと若年層の利用が多いことは活性化の要因ではなく結果。 ・地域のアーティストと連携してアトリウム事業に取り組み、公演の活動を普及することで稼働を伸ばして、劇場まで足を運んで貰いやすけている。	・共有スペース(ロビーやエントランス)を活用し、若い世代のための仕組みを作ることが、目的に依存しない居場所づくりにつながる。	・利用に余裕はできる。 ・施設があることで活性化が、逆ではある。	・施設はほとんど定着はする。
施設F	・駅と連携してサロンの機能を強化したイベント活動を行っている。 ・地域のアーティストと連携してアトリウム事業に取り組み、公演の活動を普及することで稼働を伸ばして、劇場まで足を運んで貰いやすけている。	・入り口が不明瞭であったり、デザインに高層感で過ぎるという点。誰もホールとつながりデザインにしたい。	・利用の継続計画が分りにくい。 ・駅がホールまで徒歩が短くなるなどの立地の問題。	・市街の活況の場であること。 ・駅がホールとして、市の機能が民間に利用できる事業をやる。
施設G	・自主事業を行っている。 ・人材育成事業を行っている。	・未乗車のニーズに合った自主事業を行う。 ・公共交通機関や駐車場の確保などアクセス環境の向上。	・自主事業を行っている。 ・駅から近い。	・自主事業を行っている。 ・駅が近い。 ・劇場法に基づき活動を行っている。
施設H	・駅舎で400坪の駐車。コインパーキングもあり駐車庫が多い。 ・立地として年に1000人以上の来客数を確保している。 ・人口が約1万人の地域で多く、2施設が平日の学生で賑わいを見せている。	・用事のない人でもふらふら立ち寄れるような施設づくり。	・老朽の既存不備。トイレが形式と設備の不備。	・施設を支える市民スタッフの存在(運営側にも関わってくる)。 ・市庁舎ホールとして、市の機能が民間に利用できる事業をやる。
施設I	・TPOに合わせた。近隣の観光と連携している。小さな子どももイベントプログラムなどを提供する。 ・若年文化センターは若年層が多い。	・他機関だけでなく関係者、関係人など誰でも利用しやすいようにする。 ・古い駅は定期的に、バリアフリー化や動線計画を手をいれないで実施する(実際にサインボードの活用をしている)。	・バリアフリー化や動線計画が良くないなど。 ・駅から近い。	・目的に合ったホール形態。 ・駅がホールとして、市の機能が民間に利用できる事業をやる。 ・市街の活況の場であること。 ・駅がホールとして、市の機能が民間に利用できる事業をやる。
施設J	・稼働率が高い。 ・自主事業を行っている。 ・地域のアーティストと連携してアトリウム事業に取り組み、公演の活動を普及することで稼働を伸ばして、劇場まで足を運んで貰いやすけている。	・バリアフリー化。他機関。改修。 ・いつも賑わいながらもアトリウム・カフェの活用。 ・他機関との連携。人材育成事業の推進。若年層の利用者の引き込みが重要。	・利用が施設に設計が分りにくい。 ・地域の活性化。人口減少。過度な高齢化など。	・若者が多いことは駅が、高齢者層に合わせた施設もあってほしい。多目的ホールがあることと選択が増える(ホールのみだとつまらない)。
施設K	・駅舎で400坪の駐車。コインパーキングもあり駐車庫が多い。 ・立地として年に1000人以上の来客数を確保している。 ・人口が約1万人の地域で多く、2施設が平日の学生で賑わいを見せている。	・駅舎だけでなく関係者、関係人など誰でも利用しやすいようにする。 ・古い駅は定期的に、バリアフリー化や動線計画を手をいれないで実施する(実際にサインボードの活用をしている)。	・利用が施設に設計が分りにくい。 ・地域の活性化。人口減少。過度な高齢化など。	・若者が多いことは駅が、高齢者層に合わせた施設もあってほしい。多目的ホールがあることと選択が増える(ホールのみだとつまらない)。
施設L	・駅舎で400坪の駐車。コインパーキングもあり駐車庫が多い。 ・立地として年に1000人以上の来客数を確保している。 ・人口が約1万人の地域で多く、2施設が平日の学生で賑わいを見せている。	・駅舎だけでなく関係者、関係人など誰でも利用しやすいようにする。 ・古い駅は定期的に、バリアフリー化や動線計画を手をいれないで実施する(実際にサインボードの活用をしている)。	・利用が施設に設計が分りにくい。 ・地域の活性化。人口減少。過度な高齢化など。	・若者が多いことは駅が、高齢者層に合わせた施設もあってほしい。多目的ホールがあることと選択が増える(ホールのみだとつまらない)。
施設M	・駅舎で400坪の駐車。コインパーキングもあり駐車庫が多い。 ・立地として年に1000人以上の来客数を確保している。 ・人口が約1万人の地域で多く、2施設が平日の学生で賑わいを見せている。	・駅舎だけでなく関係者、関係人など誰でも利用しやすいようにする。 ・古い駅は定期的に、バリアフリー化や動線計画を手をいれないで実施する(実際にサインボードの活用をしている)。	・利用が施設に設計が分りにくい。 ・地域の活性化。人口減少。過度な高齢化など。	・若者が多いことは駅が、高齢者層に合わせた施設もあってほしい。多目的ホールがあることと選択が増える(ホールのみだとつまらない)。
施設N	・駅舎で400坪の駐車。コインパーキングもあり駐車庫が多い。 ・立地として年に1000人以上の来客数を確保している。 ・人口が約1万人の地域で多く、2施設が平日の学生で賑わいを見せている。	・駅舎だけでなく関係者、関係人など誰でも利用しやすいようにする。 ・古い駅は定期的に、バリアフリー化や動線計画を手をいれないで実施する(実際にサインボードの活用をしている)。	・利用が施設に設計が分りにくい。 ・地域の活性化。人口減少。過度な高齢化など。	・若者が多いことは駅が、高齢者層に合わせた施設もあってほしい。多目的ホールがあることと選択が増える(ホールのみだとつまらない)。
施設O	・駅舎で400坪の駐車。コインパーキングもあり駐車庫が多い。 ・立地として年に1000人以上の来客数を確保している。 ・人口が約1万人の地域で多く、2施設が平日の学生で賑わいを見せている。	・駅舎だけでなく関係者、関係人など誰でも利用しやすいようにする。 ・古い駅は定期的に、バリアフリー化や動線計画を手をいれないで実施する(実際にサインボードの活用をしている)。	・利用が施設に設計が分りにくい。 ・地域の活性化。人口減少。過度な高齢化など。	・若者が多いことは駅が、高齢者層に合わせた施設もあってほしい。多目的ホールがあることと選択が増える(ホールのみだとつまらない)。
施設P	・駅舎で400坪の駐車。コインパーキングもあり駐車庫が多い。 ・立地として年に1000人以上の来客数を確保している。 ・人口が約1万人の地域で多く、2施設が平日の学生で賑わいを見せている。	・駅舎だけでなく関係者、関係人など誰でも利用しやすいようにする。 ・古い駅は定期的に、バリアフリー化や動線計画を手をいれないで実施する(実際にサインボードの活用をしている)。	・利用が施設に設計が分りにくい。 ・地域の活性化。人口減少。過度な高齢化など。	・若者が多いことは駅が、高齢者層に合わせた施設もあってほしい。多目的ホールがあることと選択が増える(ホールのみだとつまらない)。
施設Q	・駅舎で400坪の駐車。コインパーキングもあり駐車庫が多い。 ・立地として年に1000人以上の来客数を確保している。 ・人口が約1万人の地域で多く、2施設が平日の学生で賑わいを見せている。	・駅舎だけでなく関係者、関係人など誰でも利用しやすいようにする。 ・古い駅は定期的に、バリアフリー化や動線計画を手をいれないで実施する(実際にサインボードの活用をしている)。	・利用が施設に設計が分りにくい。 ・地域の活性化。人口減少。過度な高齢化など。	・若者が多いことは駅が、高齢者層に合わせた施設もあってほしい。多目的ホールがあることと選択が増える(ホールのみだとつまらない)。
施設R	・駅舎で400坪の駐車。コインパーキングもあり駐車庫が多い。 ・立地として年に1000人以上の来客数を確保している。 ・人口が約1万人の地域で多く、2施設が平日の学生で賑わいを見せている。	・駅舎だけでなく関係者、関係人など誰でも利用しやすいようにする。 ・古い駅は定期的に、バリアフリー化や動線計画を手をいれないで実施する(実際にサインボードの活用をしている)。	・利用が施設に設計が分りにくい。 ・地域の活性化。人口減少。過度な高齢化など。	・若者が多いことは駅が、高齢者層に合わせた施設もあってほしい。多目的ホールがあることと選択が増える(ホールのみだとつまらない)。
施設S	・駅舎で400坪の駐車。コインパーキングもあり駐車庫が多い。 ・立地として年に1000人以上の来客数を確保している。 ・人口が約1万人の地域で多く、2施設が平日の学生で賑わいを見せている。	・駅舎だけでなく関係者、関係人など誰でも利用しやすいようにする。 ・古い駅は定期的に、バリアフリー化や動線計画を手をいれないで実施する(実際にサインボードの活用をしている)。	・利用が施設に設計が分りにくい。 ・地域の活性化。人口減少。過度な高齢化など。	・若者が多いことは駅が、高齢者層に合わせた施設もあってほしい。多目的ホールがあることと選択が増える(ホールのみだとつまらない)。
施設T	・駅舎で400坪の駐車。コインパーキングもあり駐車庫が多い。 ・立地として年に1000人以上の来客数を確保している。 ・人口が約1万人の地域で多く、2施設が平日の学生で賑わいを見せている。	・駅舎だけでなく関係者、関係人など誰でも利用しやすいようにする。 ・古い駅は定期的に、バリアフリー化や動線計画を手をいれないで実施する(実際にサインボードの活用をしている)。	・利用が施設に設計が分りにくい。 ・地域の活性化。人口減少。過度な高齢化など。	・若者が多いことは駅が、高齢者層に合わせた施設もあってほしい。多目的ホールがあることと選択が増える(ホールのみだとつまらない)。
施設U	・駅舎で400坪の駐車。コインパーキングもあり駐車庫が多い。 ・立地として年に1000人以上の来客数を確保している。 ・人口が約1万人の地域で多く、2施設が平日の学生で賑わいを見せている。	・駅舎だけでなく関係者、関係人など誰でも利用しやすいようにする。 ・古い駅は定期的に、バリアフリー化や動線計画を手をいれないで実施する(実際にサインボードの活用をしている)。	・利用が施設に設計が分りにくい。 ・地域の活性化。人口減少。過度な高齢化など。	・若者が多いことは駅が、高齢者層に合わせた施設もあってほしい。多目的ホールがあることと選択が増える(ホールのみだとつまらない)。
施設V	・駅舎で400坪の駐車。コインパーキングもあり駐車庫が多い。 ・立地として年に1000人以上の来客数を確保している。 ・人口が約1万人の地域で多く、2施設が平日の学生で賑わいを見せている。	・駅舎だけでなく関係者、関係人など誰でも利用しやすいようにする。 ・古い駅は定期的に、バリアフリー化や動線計画を手をいれないで実施する(実際にサインボードの活用をしている)。	・利用が施設に設計が分りにくい。 ・地域の活性化。人口減少。過度な高齢化など。	・若者が多いことは駅が、高齢者層に合わせた施設もあってほしい。多目的ホールがあることと選択が増える(ホールのみだとつまらない)。
施設W	・駅舎で400坪の駐車。コインパーキングもあり駐車庫が多い。 ・立地として年に1000人以上の来客数を確保している。 ・人口が約1万人の地域で多く、2施設が平日の学生で賑わいを見せている。	・駅舎だけでなく関係者、関係人など誰でも利用しやすいようにする。 ・古い駅は定期的に、バリアフリー化や動線計画を手をいれないで実施する(実際にサインボードの活用をしている)。	・利用が施設に設計が分りにくい。 ・地域の活性化。人口減少。過度な高齢化など。	・若者が多いことは駅が、高齢者層に合わせた施設もあってほしい。多目的ホールがあることと選択が増える(ホールのみだとつまらない)。
施設X	・駅舎で400坪の駐車。コインパーキングもあり駐車庫が多い。 ・立地として年に1000人以上の来客数を確保している。 ・人口が約1万人の地域で多く、2施設が平日の学生で賑わいを見せている。	・駅舎だけでなく関係者、関係人など誰でも利用しやすいようにする。 ・古い駅は定期的に、バリアフリー化や動線計画を手をいれないで実施する(実際にサインボードの活用をしている)。	・利用が施設に設計が分りにくい。 ・地域の活性化。人口減少。過度な高齢化など。	・若者が多いことは駅が、高齢者層に合わせた施設もあってほしい。多目的ホールがあることと選択が増える(ホールのみだとつまらない)。
施設Y	・駅舎で400坪の駐車。コインパーキングもあり駐車庫が多い。 ・立地として年に1000人以上の来客数を確保している。 ・人口が約1万人の地域で多く、2施設が平日の学生で賑わいを見せている。	・駅舎だけでなく関係者、関係人など誰でも利用しやすいようにする。 ・古い駅は定期的に、バリアフリー化や動線計画を手をいれないで実施する(実際にサインボードの活用をしている)。	・利用が施設に設計が分りにくい。 ・地域の活性化。人口減少。過度な高齢化など。	・若者が多いことは駅が、高齢者層に合わせた施設もあってほしい。多目的ホールがあることと選択が増える(ホールのみだとつまらない)。
施設Z	・駅舎で400坪の駐車。コインパーキングもあり駐車庫が多い。 ・立地として年に1000人以上の来客数を確保している。 ・人口が約1万人の地域で多く、2施設が平日の学生で賑わいを見せている。	・駅舎だけでなく関係者、関係人など誰でも利用しやすいようにする。 ・古い駅は定期的に、バリアフリー化や動線計画を手をいれないで実施する(実際にサインボードの活用をしている)。	・利用が施設に設計が分りにくい。 ・地域の活性化。人口減少。過度な高齢化など。	・若者が多いことは駅が、高齢者層に合わせた施設もあってほしい。多目的ホールがあることと選択が増える(ホールのみだとつまらない)。

4.3 活性化を阻害する要因

活性化を阻害する要因の主な意見を以下にまとめた。

(1) 建築計画的要因

- ・ 築年数が多く、老朽化によって利便性が悪い。
- ・ バリアフリー化が行き届いておらず、利便性が悪い。

(2) 都市的要因

- ・ 地域特性に合わない立地、交通の便が悪い。
- ・ 地域の人口減少による利用者の減少。
- ・ 若者の利用者が少なく高齢者の利用者が多いため、将来性に不安がある。

(3) 劇場法的要因

- ・ 自主事業を行っていない。
- ・ 事業の質の向上に対して積極的に取り組んでいない。
- ・ 施設の自主的な活動に対して、金銭面が障害になる。

4.4 一般論としての活性化の要因

運営している施設だけでなく一般論としての活性化の要因についての主な意見を以下にまとめた。

(1) 建築計画的要因

- ・ 事業や演目に合ったホールの規模や形態。
- ・ 運営方針や地域特性を考慮した、恒常的に滞在できる建築空間がある。

(2) 都市的要因

- ・ 若者、高齢者の利用が多い。
- ・ 地域特性に合った公共交通機関からのアクセスがしやすい立地。
- ・ 人口比率にあったホール規模。

(3) 劇場法的要因

- ・ 自主事業を積極的に行うことや、利用者ニーズに応えることで、館としての方向性が確立している。
- ・ 目的の有無に関わらず自然と人が集まることのできる空間、雰囲気づくり。
- ・ 稼働率が高く、施設を利用される機会が多いことで、施設が認知される。
- ・ 教育、地域、芸術団体との連携事業により、自主事業の質の向上を図り、利用者の幅を広げる。

5. 都市的要因の分析

5.1 都市分類

都市分類をするにあたり国土交通省の定めた地方圏を構成する都市の分類^{参考文献5)}によって都市の特性を8つに分類する。本研究ではヒアリング調査施設のみを対象とするため比較ができるよう大きく3つの分類で比較していく(表4)。

表4 都市の特性分類

No.	本研究での分類	分類		定義 ^{注1)}	人口密度(人/ha)
		大分類	小分類		
1	大都市	三大都市圏	三大都市圏	東京圏・名古屋圏・大阪圏	1225
		地方中核都市	地方中核都市	政令指定都市 ※三大都市圏に含まれる政令指定都市は除く	1232
2	中心都市	高次都市機能を有する都市	中心都市	都市雇用圏内(中心都市)	639
		中小都市	中心都市	都市雇用圏内(中心都市)	175
-	-	農村漁村	ベッドタウン	都市雇用圏内(郊外都市)	23
			ベッドタウン	都市雇用圏内(郊外都市)	
			他都市への依存が低い都市	都市雇用圏外	

5.2 交通の便と駐車台数

交通の便と駐車台数のデータによる傾向とヒアリング結果を照らし合わせ、以下のことが明らかになった(表5)。

- ・ 大都市の施設は駅から徒歩10分圏、駐車台数は少ない
- ・ 中心都市、ベッドタウンでは徒歩10分前後、駐車場保有施設は300台前後
- ・ 駅に近い施設は周辺の駐車場と連携している場合もあるため周辺駐車場の数も影響する
- ・ 大都市では駅の近さ、中心都市やベッドタウンでは駐車台数を重視していた

表5 交通の便と駐車台数

施設名	分類No.	駅から徒歩(分)	駐車台数(台)	料金	備考
施設A	2	不可	360	無料	
施設B	1	5	130		
施設C	1	5	42	有料	
施設D	1	3	10	有料	主催者のみ(グループ基本1台)
施設E	1	3	95	有料	
施設F	1	10	240	有料	
施設G	3	20	316		
施設H	2	20	422	有料	
施設I	1	7	なし		
施設J	1	1	なし		
施設K	3	10	451	無料	
施設L	2	15	8	無料	
施設M	1	2	なし		同居ビル内に有料駐車場あり(187台)
施設N	3	1	587	有料	同居ビルと共同利用
施設O	2	15	なし		
施設P	1	5	なし		
施設Q	1	3	なし		
施設R	2	15	114	有料	施設利用なしでも利用可

5.3 一席あたりの人口

一席あたりの人口のデータによる傾向とヒアリング結果を照らし合わせ、以下のことが明らかになった(表6)。

- ・ 大都市では1次エリアで1席当たりの人口が20人以上
- ・ 大都市の施設では3次エリアで施設数が増えている
- ・ ベッドタウンでは施設数も人口も少なく、大都市よりも他の施設を意識していない
- ・ 大都市では施設も人口も過密になるため他の施設の影響を受けやすい

表6 一席あたりの人口

施設名	分類No.	席数	1次エリア 席数(1km)	2次エリア 席数(3km)	3次エリア 席数(5km)	市の席の 総数	1次エリア 1席あたりの 人口(人/席)	2次エリア 1席あたりの 人口(人/席)	3次エリア 1席あたりの 人口(人/席)	1席あたりの 人口(人/席)
施設A	2	1,524	1,524	1,524	2,539	3,999	8	57	55	44
施設B	1	667	667	667	667	667	24	90	242	255
施設C	1	1,449	735	735	3,662	1,843	55	362	182	144
施設D	1	200	765	15,049	17,966	770	74	27	48	253
施設E	1	802	802	802	7,670	4,473	27	247	65	69
施設F	1	720	2,174	3,600	5,535	720	9	19	37	96
施設G	3	838	838	838	1,346	1,088	13	38	36	36
施設H	2	1,520	1,520	2,500	2,500	3,516	8	37	79	77
施設I	1	728	3,228	9,990	15,882	4,804	6	26	48	17
施設J	1	618	618	2,596	7,206	3,780	43	72	51	67
施設K	3	992	992	2,752	3,357	1,410	33	67	130	72
施設L	2	209	1,015	1,015	2,539	3,999	7	57	55	44
施設M	1	264	1,374	1,374	2,849	1,264	34	179	200	504
施設N	3	300	1,418	1,818	1,818	3,742	7	17	21	22
施設O	2	1,840	2,325	2,325	2,325	6,446	5	27	47	52
施設P	1	735	4,933	6,924	18,037	6,246	8	61	72	38
施設Q	1	1,540	1,540	1,540	1,540	1,805	9	70	122	132
施設R	2	1,514	2,862	4,053	4,299	5,603	9	32	47	54

5.4 施設周辺の人口密度

施設周辺の人口密度のデータによる傾向とヒアリング結果を照らし合わせ、以下のことが明らかになった(表7)。

- ・ 大都市は中心都市やベッドタウンほど範囲によって人口密度は変動しない
- ・ ベッドタウンの施設は施設周辺に人口が集中している

誘引機能との接続では廊下と接続し機能内にCSがあるもの(④-1)や廊下がなくガラス越しに接続しているものがみられた(④-2)。次に2つの機能と接続しているCSではCSが一方の機能に内包され、もう一方の機能に対し壁かガラスで接続している形がみられた(⑥)。ホワイトエ、誘引機能内にCSがあり外部空間が接続している場合(⑥-1)の壁面はガラスであったが外部空間にCSがある場合はホワイトエとの間は壁で仕切られ、誘引機能はガラスで仕切られる形となった(⑥-2)。また、CSが2つの機能を連結させている形もみられた(⑦)。3つ以上の機能が接続するCS(⑧、⑨、⑩)では、基本的に⑥の形の組み合わせで構成されているが⑨においては屋外空間が機能同士の連結を担っていた。

次にCS 同士の接続分類では、同一階接続(⑪)と上下階接続(⑫)の2つの類型が得られた(表11)。また、さらに同一階接続では廊下を挟んだ間接接続(⑪-1)と隣り合う直接接続(⑪-2)、ガラスを挟んだ接続(⑪-3)がみられ、上下階接続では開かれたCS 同士の接続(⑫-1)、開かれたCSと閉じたCSの接続がみられた(⑫-2)。⑫-1では同ホールと接続しており、ロビーの役割にもなるCSが積層されている形となっていた。

表 11 CS 同士の接続分類

CS.No.	階層	吹き抜け	廊下	エントランス	通過動線	階	用途	家具	接続空間				CS同士の接続	
									ホワイトエ	特定用途諸室	誘引機能	外部空間		
④-1	I	□	-	○	1	-	J	SD					1	間接接続
④-2	I	□	-	○	1	-	L			e			1	間接接続
⑥-1	II	□	-	○	2	-	K						2	間接接続
⑥-2	II	□	-	○	2	-	K						2	間接接続
⑦	II	□	-	○	1	-	J						2	ガラスを挟んだCSの接続
⑧	II	□	-	○	1	-	J						2	開かれたCS同士の接続
⑨	II	□	-	○	1	-	J						2	開かれたCS同士の接続
⑩	II	□	-	○	1	-	J						2	開かれたCSと閉じたCSの接続
⑪-1	II	□	-	○	1	-	K	SD	SD	e			2	開かれたCSと閉じたCSの接続
⑪-2	II	□	-	○	1	-	K		SD	e			2	開かれたCSと閉じたCSの接続

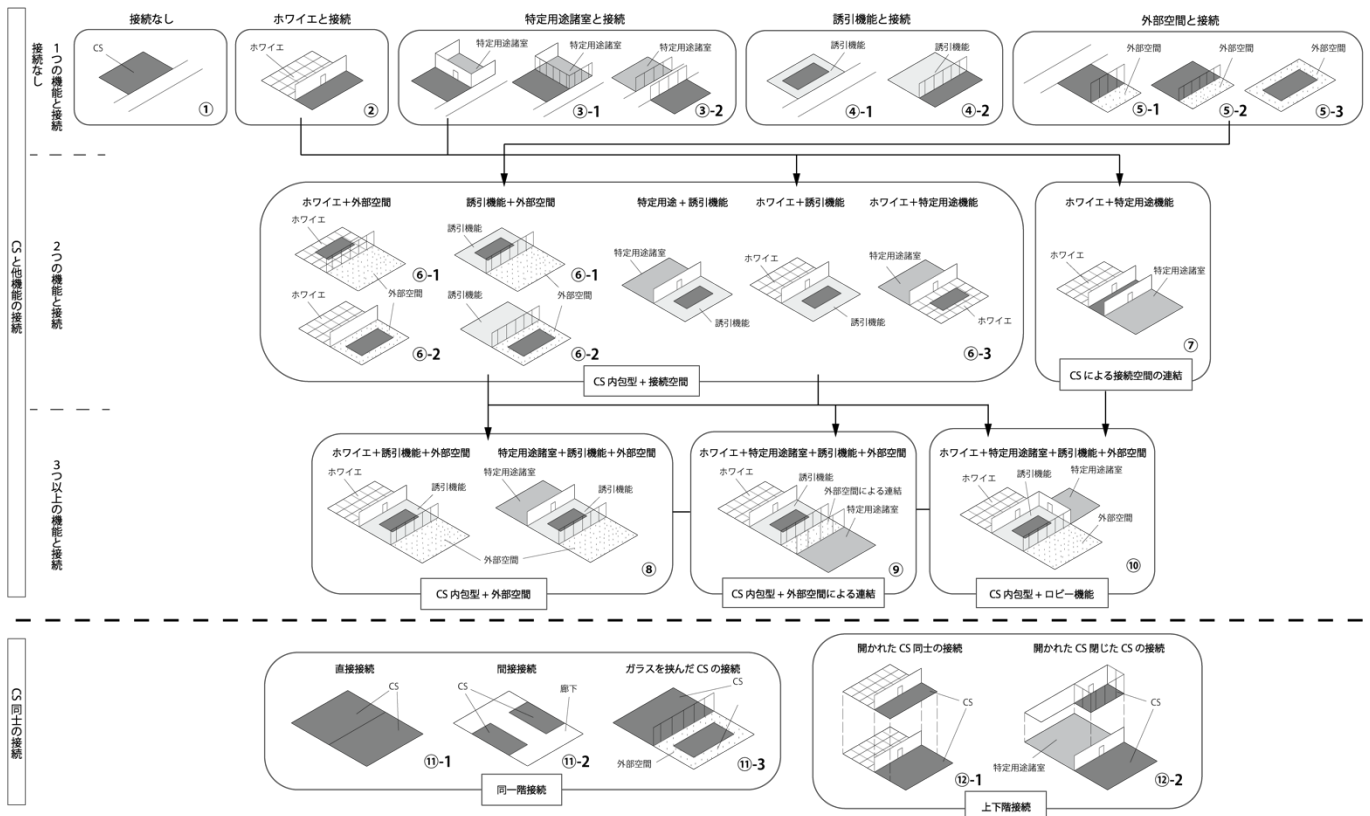


図 2 ヒアリング施設のCSの類型

6.3 コモンスペースの建築的要素と付属的要素

ヒアリング施設のCSにおいて建築的要素と付属的要素に誘発されて起こる人の行為が施設見学の結果、以下の項目が共通して挙げられた(表12)。

建築的要素ではガラス面付近は明るいため昼間は人が集まりやすく、外を向くように家具も配置されていた。また、施設Rでは階段がイベント広場に面する形で展開されておりイベントの際は客席の代わりの役割を担っていた。幅の広い階段だと通行だけでなく留まる場所にもなることが分かった。

付属的要素ではベンチ・ソファが最も多く見られた。机椅子はベンチ・ソファに比べて長時間滞在する様子が見受けられた。また、施設独自の付属要素としては施設Eでは防音のCSがあり楽器などの大きな音を出せる環境があった。施設Rではイベントスペースとして使えるCSにはキャットウォークなどの設備があり、劇場の要素が日常で垣間見えるような形で見る事ができた。

表 12 CSの建築的要素と付属的要素

建築的要素			付属的要素			
建築的要素	姿勢	行為	付属的要素	姿勢	行為	
ガラス面	付近で	会話	ベンチ・ソファ	座って	飲食	
		携帯電話			読書	
		携帯電話			持ち合わせ	
		外を眺める			アンケート記入	
壁面	よりかかって	携帯電話	付近に立って		会話	
	面を利用して	アンケート記入			飲食	
柱	よりかかって	携帯電話	机椅子	座って	読書	
	囲んで	会話			携帯電話	
	面を利用して	アンケート記入			持ち合わせ	
階段(段差)	座って	会話	ちらしコーナー	立って	情報収集	
		座しを見る			立って	情報収集
		立って			上を見上げる	提示板
吹き抜け	立って	大きな声を出す	本棚	立って	本を見る	

6.4 コモンスペースの提案

ヒアリング施設の利用実態や本来の計画と運用後の齟齬などをふまえ、コモンスペースの計画への提案として以下の6つを提案する。

(1)CSの連続

類型⑥のようなCSを連続して配置することで連続したにぎわいを生む。隣合わずとも重なり合うことで異なる機能を目的とした来館者が連続した空間に集まることになる。吹き抜けに対して集約することで互いの様子を伺えるCSや待合ロビーのような空間が連続するCSができる。

(2)管理事務室の配置

ヒアリングの中で多く挙げられた、目が行き届かないため解放できていないという意見に対し、管理事務室の積層化や吹き抜けを中心にCSを展開し吹き抜けに対して管理事務室を配置することで目が届く範囲が広がることで解消できる。また、管理事務室から離れた施設RのCSは人通りが多い場所であることから設置ができていると考えられ、地域の方も見守る人であると捉えることができる。見守る人をスタッフだけでなく大きく捉えることでCS設置場所の幅が広がり、地域と一体となり作っていく施設になる。

(3)滞在時間を考慮した計画

ハイテーブルとローテーブル+椅子ではそこで行われる行為や滞在時間が異なる。管理面でも滞在時間の短い場所の管理はあまり必要がなく、滞在時間が長くなるような場所については管理をするという形でメリハリのついた運営ができるため、滞在時間を考慮した計画をする。また、現状使われていない場所もこのように考え、家具等を配置することで利用される可能性が生まれる。

(4)大きな空間と小さな空間

大きく吹き抜け人の動線と交わる開放的な空間と、天井があり落ち着いた雰囲気勉強や読書ができる空間を両立することで誰もが居場所を見つけやすい施設になる。

(5)施設活動の表出

イベントスペースにある設備が日常的に見えている、練習室での活動が外からよく見えることなど、活動が想像できるような要素を日常に表出させることで催しが目的ではなかった来館者に催しのへ興味を持ってもらう。ポスターやちらしだけでなく目を引くような形で表出することで興味を持ち、使いたいと感じてもらう。

(6)CS数の管理

普段は誰でも利用できるCSでも、催しがある場合は解放できないという声も多く挙げられた。常に居場所のあるカフェの設置や、解放できない日には空いている他の諸室を開放するなどの施設全体でCSの数を管理することで居場所のある施設として認識されふらっと立ち寄る人が増えることが期待される。

7. まとめ

本研究全体を通して公立文化ホール活性化について以下のことが有効であると考えられる。

(1)建築計画的要因

- ・目的がなくとも滞在できるCSを作り、地域の居場所として認識されること

- ・様々な大きさで使える市民活動の場所があること

(2)都市的要因

- ・土地の主要交通手段や周辺にあるパーキングの数に応じて駐車台数を設定すること

- ・周辺の年齢別人口などを把握し、事業やバリアフリー化などの施設整備を行うこと

(3)劇場法的要因

- ・地域の人々のニーズを把握し運営を行うこと

- ・様々な団体と連携をし、事業の幅を広げること

- ・運用後使われにくい諸室は新たな使い方の提案や自習室としての解放などを行うこと

- ・施設だけでなく施設を起点とした地域の活性化に貢献すること

【参考文献】

1)平成28年度全国公立文化施設名簿

2)浦部智義：公演時外の滞在者の分布と意識から見た劇場・ホールを持つ公立文化施設内のオープンスペースに関する研究—ホワイエを解放している施設における調査研究—,日本建築学会計画系論文集,2010年1月

3)政府統計の総合窓口(e-stat)jSTAT MAP、平成27年度国勢調査:総務省統計局、独立法人統計センター

4)安森亮雄、江連寛二、松浦達也：多目的コモンスペースを中心とする空間接続から見たキャンパス建築の公開性—大学キャンパスにおける建物による公開性に関する研究(3)—,日本建築学会計画論文集,2018年5月

5)国土交通省：「住み続けられる国土」の地域構造について

6)金本良嗣、徳岡一幸：「日本の都市圏設定基準(金本・徳岡)に基づく都市雇用圏,国勢調査(平成27年)

【発表論文】

1)柏駿介、田彦俊基、高橋里菜、勝又英明：都市立地から考える活性化の要因に関する研究—公立文化ホールを長期使用するための方策構築に関する研究—,日本建築学会関東支部研究報告集,2021年3月

2)高橋里菜、勝又英明：公立文化ホールにおける活性化に関する研究(その5)—公立文化ホールを長期使用するための方策構築に関する研究—,日本建築学会大会学術講演梗概集,2020年9月

3)高橋里菜、勝又英明：公立文化ホールにおける活性化に関する研究(その2)—公立文化ホールを長期使用するための方策構築に関する研究—,日本建築学会関東支部研究報告集,2020年3月

4)高橋里菜、玉井宏典、勝又英明：公立文化ホールにおける活性化に関する研究(ヒアリング調査による)—公立文化ホールを長期使用するための方策構築に関する研究(その4)—,日本建築学会大会学術講演梗概集(北陸),2019年9月

5)玉井宏典、高橋里菜、城所友莉奈、勝又英明：公立文化ホールにおける活性化に関する研究—公立文化ホールの長期使用に関する方策構築に関する研究—,日本建築学会関東支部研究報告集,2019年3月